海外レポート　**中国　上海**

「中国で進展するオンラインサービス事情」

洲澤　輝

依然として新型コロナウイルスが世界中で大流行している中、中国では感染予防のため、市民はなるべく外出を控え、企業は在宅勤務や交替勤務制を取り入れ独自に感染予防を行っています。その結果、家にいる時間が増え、仕事・プライベート共にスマートフォンを使用する時間も増加しています。

そこに着目した中国企業は、室内向け用のオンラインサービスを続々と開発、提供しています。例えば、オンラインでの授業アプリや会議アプリ、転職面接用のアプリ、オンライン墓参り、オンライン診察、室内フィットネス用のアプリ等があります。この様な室内向けサービス・アプリは、新型コロナウイルスの感染拡大が終息するまでは需要の増加が見込まれます。

今月号のハッピーメールでは、「オンライン墓参り」と「オンライン診察」についてご紹介します。

＜ネット上の祭壇「雲（クラウド）墓参」＞

４月４日、中国では清明節を迎えました。中国の清明節は、日本の盆や彼岸にあたることから毎年大勢の人たちが先祖の墓参りに足を運びます。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響により、湖北省や遼寧省、河北省、山東省、吉林省、貴州省などでは、各省内の幾つかの市・県において、墓地を集団で訪れる形の墓参りを禁止しました。

そこで、代わりに推奨されたのがオンライン上に祭壇を設けた「雲（クラウド）墓参」です。インターネット上に故人の祭壇を設けるサービスで、遺族らはスマートフォンのアプリを通じて献花、ろうそくの点灯やメッセージの送信を行います。また、墓参りができない人向けには、代理で墓石をきれいにし、献花を行うサービスもあります。

＜上海初の公立インターネット病院が誕生＞

今から四年前、上海の中山医院や１３カ所のコミュニティー衛生サービスセンター、そして70の薬局店が協力して、オンライン上に上海発の医療サービスプラットフォームを立ち上げました。その名も「徐匯雲医院」です。「徐匯雲医院」では、申し込みから問診・調剤までがインターネットを通じて可能です。プラットフォーム開設からこの四年間で延べ、180 万人以上の利用者に対して診察の予約サービスをはじめ、ビデオを通じたオンライン問診や電子処方箋の作成、薬を患者の自宅まで配送するサービスなどを行ってきました。今では、登録ユーザー数が 17 万人超に達し、上海では新たな医療サービスとして注目されています。患者はオンラインでの問診や相談・予約の他に、呼吸器内科、総合診療科、循環器科など複数の専門医とオンライン上で対面して診察を受けることができます。また、難病が疑われる際には、複数の医師による共同診断も行われます。

新型コロナウイルス流行時には、「徐匯雲医院」のスマートフォンアプリが立ち上げられ、市民からの新型コロナウイルスに関する問い合わせに無料で対応し、適切な予防方法などの情報を提供しました。

【徐匯雲医院のアプリ画面】

こうした中、「徐匯雲医院」は、今年２月 26 日に上海市の公立病院として、初めて「インターネット病院」の営業許可を取得しました。今までは、医療プラットフォームとして活躍していましたが、これからは一つの公立インターネット病院として活躍します。これにより、公立病院としてさらに医療サービスが市民へ提供できるようになります。

【スマートフォンよるオンライン診察の模様】

最近は新型コロナウイルスの流行を機に、今まで存在しなかったインターネット上でのサービスが続々と誕生しています。依然として世界中で新型コロナウイルスの終息が見通せない中、今後もオンラインを主軸としたサービスが増えていくことが予想されます。そのため、企業は時代に適応したサービスの展開が求められるのではないかと感じます。

引き続き、一刻も早い新型コロナウイルスの終息を祈っています。